

共創の場形成支援プログラム (COI-NEXT)



令和4年度第1回拠点活動報告会 ＜地域共創分野＞

令和4年4月7日



科学技術振興機構

地域共創分野プログラムオフィサー 中川雅人

副プログラムオフィサー 西村訓弘

拠点形成型プログラムの大括り化

1. 既存のJST拠点形成型プログラムを「共創の場形成支援」として大括り化
2. 2020年度から、新規公募・採択を「共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）」へ一本化
毎年度の新規課題（拠点）の定期公募を予定
3. 2021年度から、「共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）」に地域共創分野を設定



共創分野



久世 和資 PO

旭化成株式会社
常務執行役員 デジタル共創本部長

地域共創分野



中川 雅人 PO

JST シニアフェロー
株式会社デンソー フェロー(嘱託)
広島大学 客員教授



西村 訓弘 副PO

三重大学
大学院地域イノベーション学研究科
教授/特命副学長
宇都宮大学 特命副学長

政策重点分野 (量子技術)



石内 秀美 PO

元 株式会社先端ナノプロセス
基盤開発センター
代表取締役社長

政策重点分野 (環境エネルギー)



菅野 了次 PO

東京工業大学
全固体電池研究センター
センター長 特命教授

政策重点分野 (バイオ)



佐藤 孝明 PO

株式会社島津製作所 シニアフェロー
基盤技術研究所
ライフサイエンス研究所・所長



戸口田 淳也 副PO

京都大学
ウイルス・再生医学研究所/
iPS細胞研究所 教授

【共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT） 設置の背景】

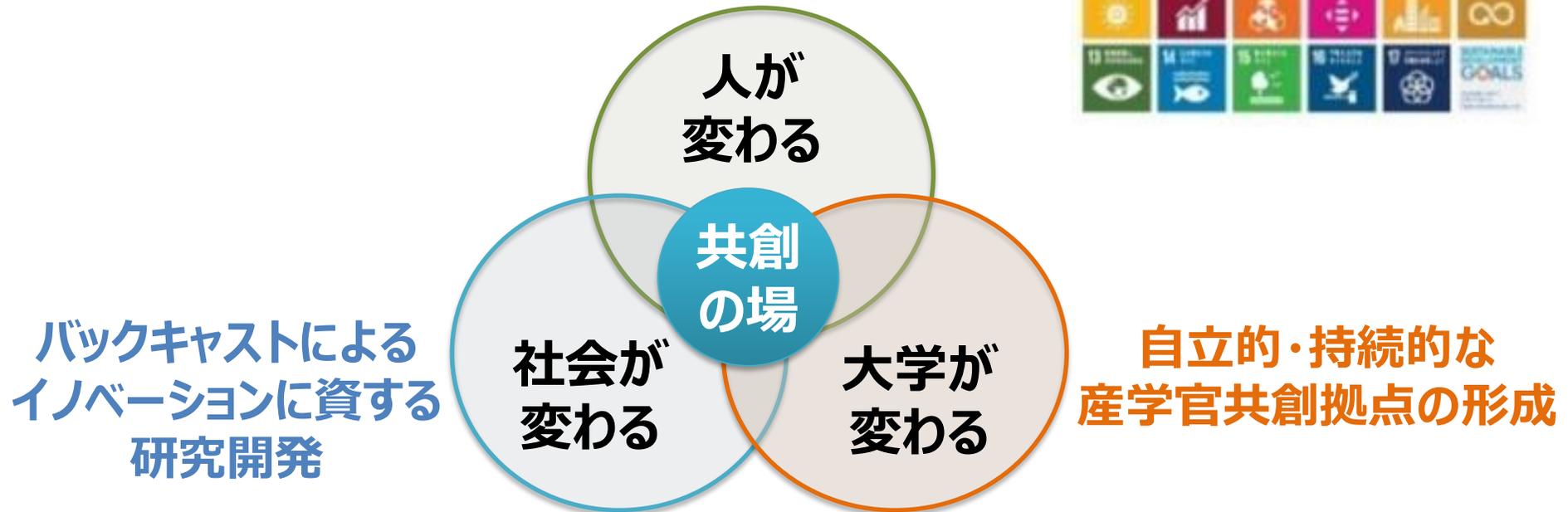
- 将来の不確実性や知識集約型社会に対応したイノベーション・エコシステムを産学官の共創（産学官共創）により構築することが必要。
- 「ウイズ／ポストコロナ」の社会像を世界中が模索する中、産学官民で将来ビジョンを策定・共有し、その実現に向かって取り組むことが必要。
- 経済が厳しい状況にある中、国が重点的に支援し、大学等を中核とした組織対組織の本格的な共同研究開発の推進と環境づくりを進めることが重要。

【地域共創分野 新設の背景】

- 新型コロナウイルス感染症拡大は、知的・人的・物的リソースを都市部に依存する一極集中型の日本社会の脆弱性を浮き彫りに。
- 地域への分散化によって、強靭性（レジリエンス）を獲得・リスクを最小化し、地域産業・社会の抱える課題を地域が自立的・持続的に解決し続ける仕組みとなるイノベーション・エコシステムの構築が急務。
- 絶えず変化・複雑化する地域の課題に対し、知の拠点である地域大学等、地域ニーズを把握している地方自治体、出口となる企業が連携し、地域における産学官の地域共創の場の構築が必要。

共創の場形成支援プログラムを通じて成し遂げたいこと

SDGs×ウィズ/ポストコロナの
社会像（ビジョン）共有



社会課題を解決し
社会を変える

特色ある地域大学

共創の場形成支援 実施拠点(COI-NEXT 令和3年度採択)

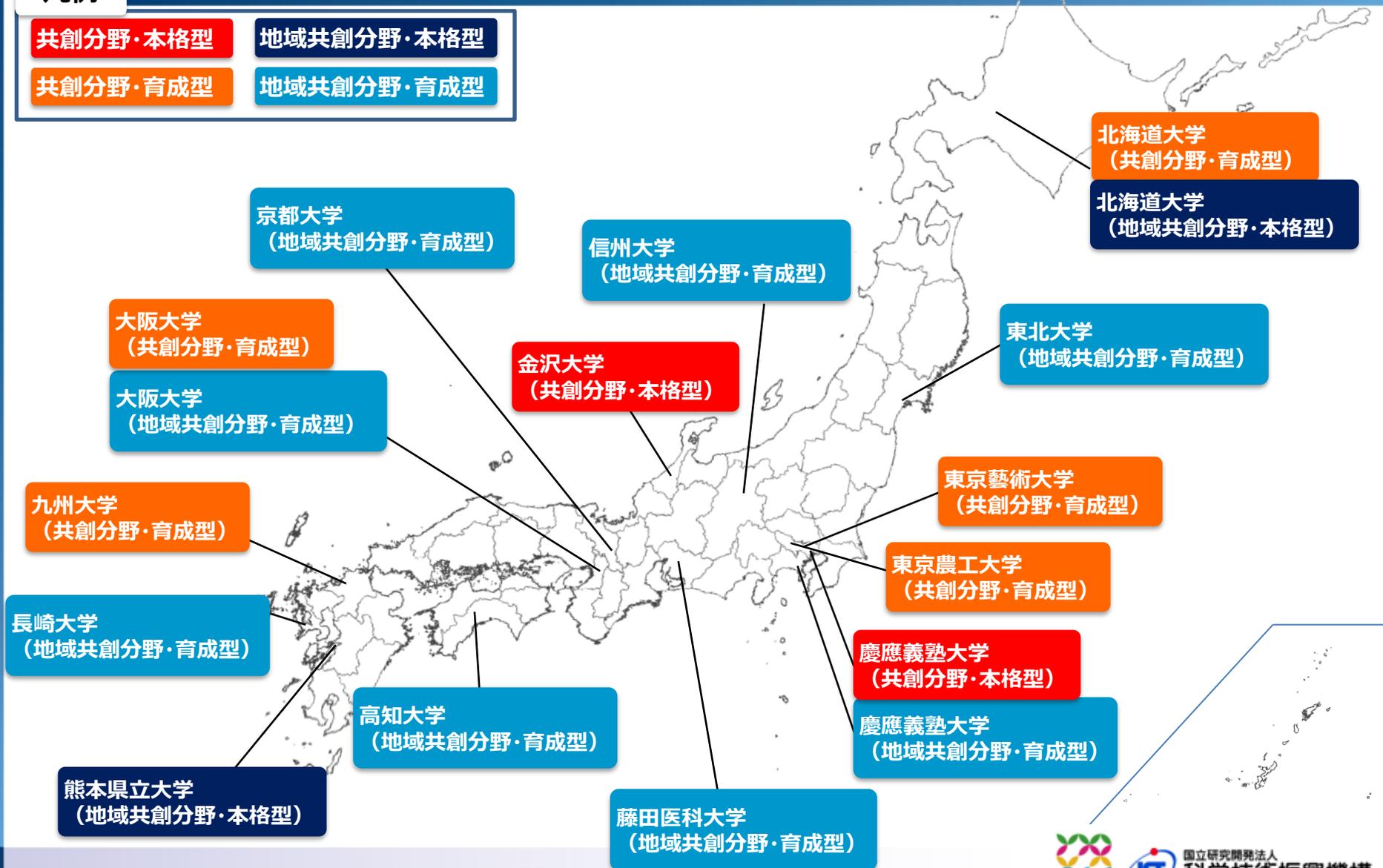
凡例

共創分野・本格型

地域共創分野・本格型

共創分野・育成型

地域共創分野・育成型



共創の場形成支援 実施拠点(COI-NEXT 令和3年度採択)

凡例

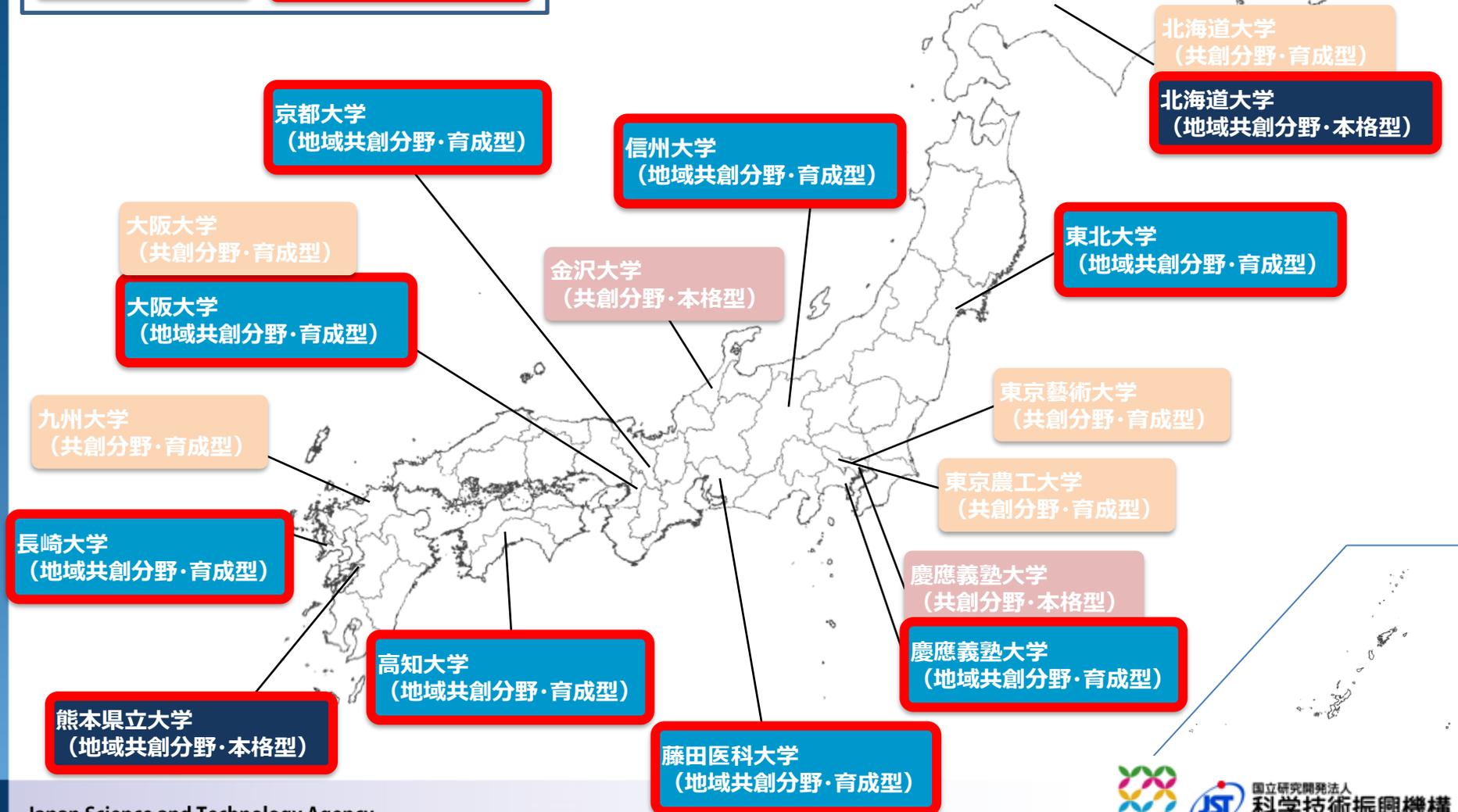
共創分野・本格型

地域共創分野・本格型

共創分野・育成型

地域共創分野・育成型

本日の事例紹介拠点



【地域共創分野】プロジェクト一覧（本格型2件・育成型8件）

実施タイプ	拠点名称	代表機関	プロジェクトリーダー
本格型	こころとカラダのライフデザイン共創拠点	北海道大学	吉野 正則
本格型	「流域治水を核とした復興を起点とする持続社会」地域共創拠点	熊本県立大学	島谷 幸宏
育成型	美食地政学に基づくグリーンジョブマーケットの醸成共創拠点	東北大学	松八重 一代
育成型	デジタル駆動 超資源循環参加型社会 共創拠点	慶應義塾大学	田中 浩也
育成型	患者と家族と医療従事者のライフデザインを実現するスマート在宅治療システム拠点	信州大学	齋藤 直人
育成型	家族が繋がる、人とIT技術等が共生する健康街づくり実現拠点	藤田医科大学	齋藤 邦明
育成型	ゼロカーボンバイオ産業創出による資源循環共創拠点	京都大学	沼田 圭司
育成型	未来型知的インフラモデル発信拠点	大阪大学	関谷 毅
育成型	SAWACHI型健康社会共創拠点	高知大学	菅沼 成文
育成型	インテリジェント養殖を基軸にした「ながさきBLUEエコノミー」形成拠点	長崎大学	征矢野 清

地域共創分野 令和3年度拠点の採択して感じた主なポイント

【共通部分(本格型・育成型)】

- 「ビジョン主導・バックキャスト」のアプローチ。
- 「誰の」「どのような」課題を解決したいのかが具体的・明確化。

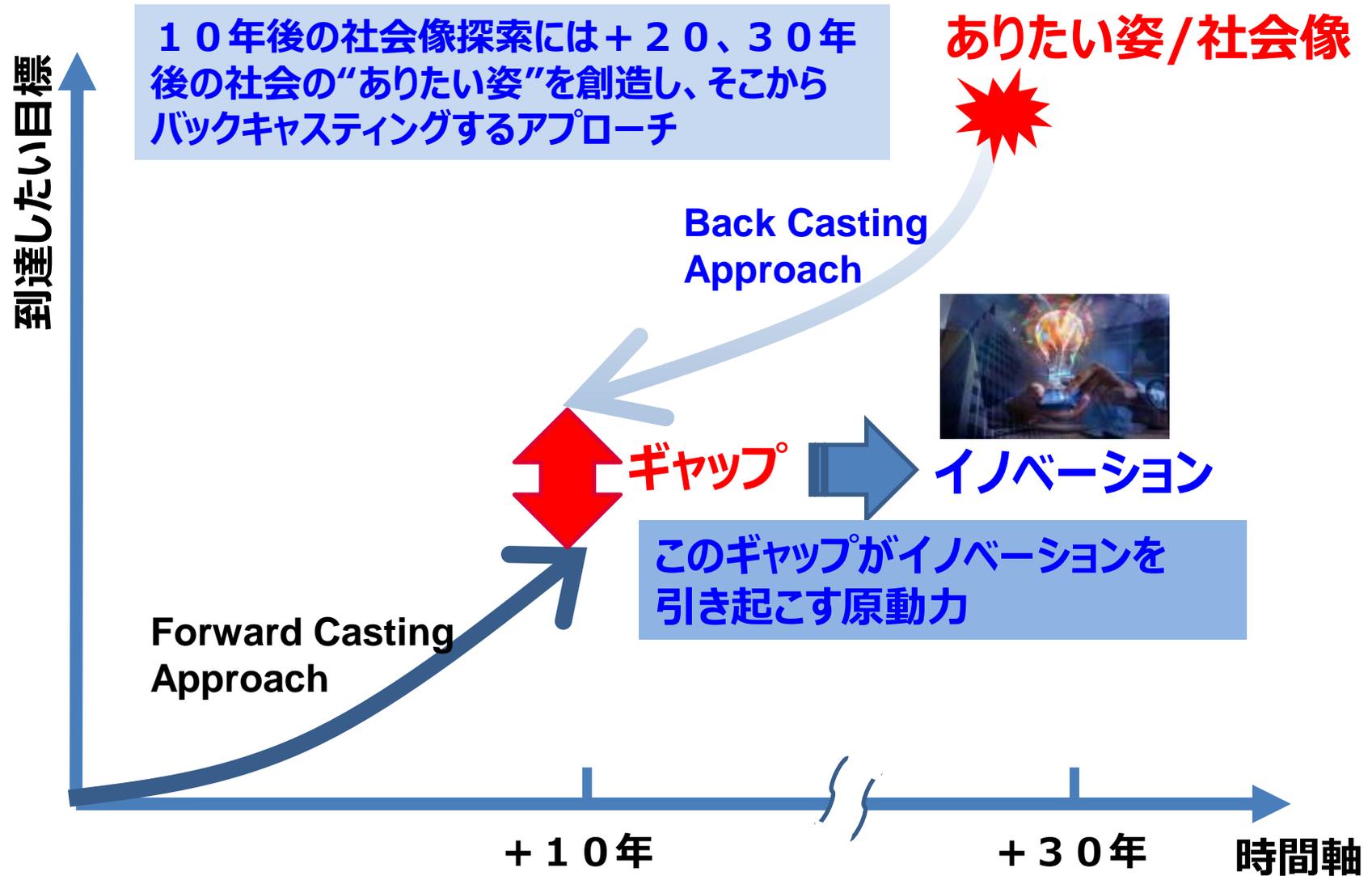
【本格型：2拠点】

- 地域社会の抱えた社会課題がシャープ、かつ明確にとらえている。
- ビジョン形成が明確かつターゲット、やるべきことが明確。
- 直ぐに研究開発着手し、ロケットスタートできる体制、仕組み。
- 産・学・官の社会課題解決に対するコミットメントを強く感じる。
- 地域の市民・住民を巻き込んだ取り組みになっている。

【育成型：8拠点】

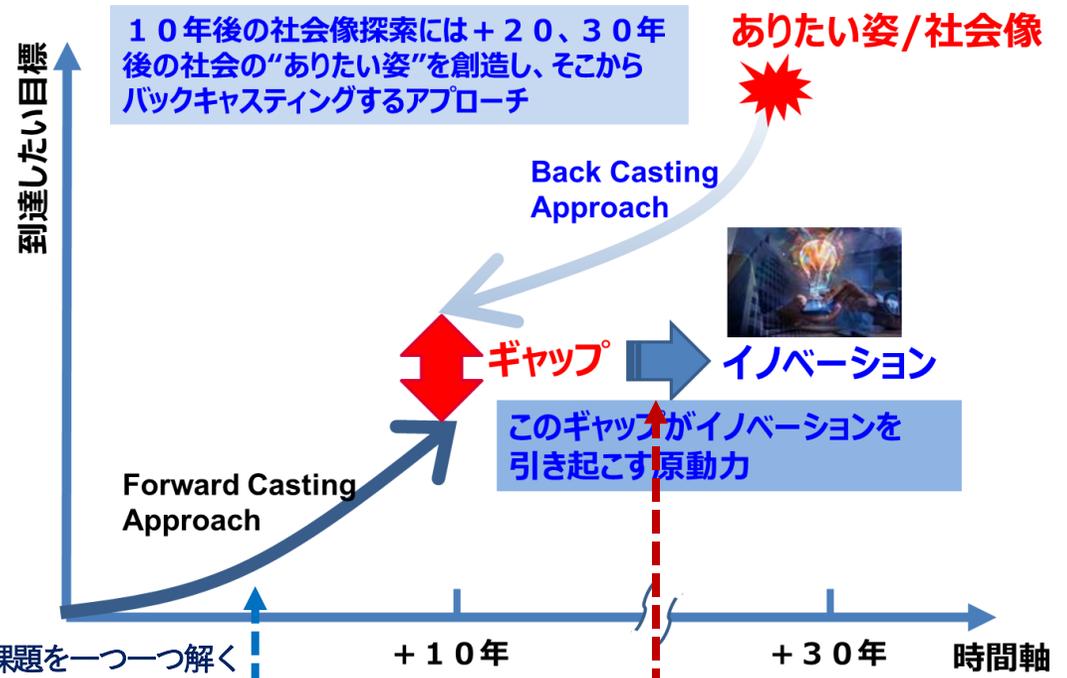
- 地域社会の抱えている社会課題を産官民で深堀議論できている。
- ビジョン形成はまだ粗削りだが、大きなビジョン形成を作りうるポテンシャルは高い。
- 地域の社会課題をなんとかしたい熱意・モチベーションが非常に高い。

イノベーションを生むバックキャスティング・アプローチ



イノベーションを生むバックキャスティング・アプローチ

地域共創の場で課題解決を遂行する体制のイメージ



既存技術+開発した技術を適応し課題を一つ一つ解決する。

Lab B
(社会実装研究)

ギャップを乗り越える革新的な基礎研究成果を生み出す。

Lab A
(基盤的研究)

共通の目標を持ち密な議論を重ねる

並走する

革新的な研究成果を活かし、イノベーションを誘発する

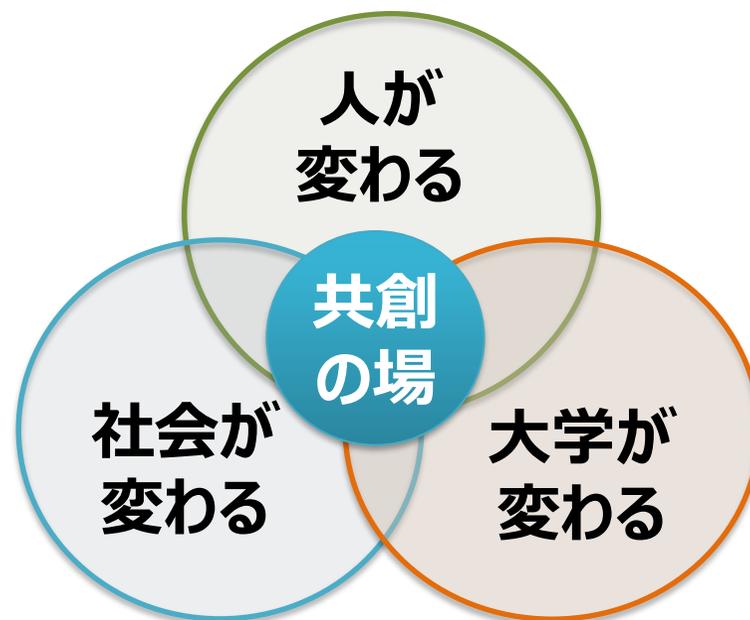
地域共創の場

産官学民などの関係者が課題を共有し共に考え、解く場

COI-Next補助期間

自立・自走

登壇される10拠点へのメッセージ



**優れた指導者は必ず
ビジョン・ミッション・目標を設定します！
リーダーシップの本質は「信頼」です！**

元米国国務長官故コリン・パウエル

共創の場形成支援プログラムの問い合わせ先

国立研究開発法人科学技術振興機構
イノベーション拠点推進部 共創の場グループ



e-mail : platform@jst.go.jp

今後の公募情報は、下記ホームページをご覧ください。

HP : <https://www.jst.go.jp/pf/platform>

ご清聴ありがとうございました